校長室だより

令和７年１２月２４日（水）
第　３５　号
十日町市立中条中学校校長室

２学期を終えるにあたり

本日 12 月 24 日（水）は令和７年度第２学期終業式です。終業式で以下の話をしました。家庭での話題にしていただけたら幸いです。

令和７年がまもなく終わろうとしています。11 月中旬にインフルエンザの感染があっという間に広がり、３日間学校閉鎖をしました。その後も学級閉鎖があり、３年生は冬休み期間に１日補充学習を行います。感染症は目に見えない敵であり、手洗いうがい、運動と休養等の日常の取組を継続するしかありません。（ご家庭でもよろしくお願いします。）

２学期の始業式で、校門拡張の話をしました。中条中学校は地域から大きな期待を受けている学校です。その期待に応えるべく、体育祭の地域交流種目では、生徒会と PTA 役員が話し合いを重ね、昨年度よりも盛り上がるイベントになりました。景品のメッセージ書きなど全校で一丸となった取組が素晴らしかったです。

11 月にようこそ先輩講演会で中条中学校の卒業生、樋熊敏文様をお迎えしました。独特の衣装や手品を交えたり、インタビューしたりしながら、「大きな夢小さな夢、どんどん描いていきましょう～向き不向きより前向きに～」というテーマでの話でした。その時のメッセージです。

> 夢はすべて叶うとは限りませんが、その夢をかなえるための努力はその後の人生で活きます。今の夢に向けて、向き不向きを気にするより前向きに挑戦していきましょう。

４月に３年生を対象にした全国学力・学習状況調査の質問、「将来の夢や目標を持っていますか」では、肯定的な評価が全国平均を上回りました。夢や目標を持つことは、未来へ向かう原動力になると言われています。今、私はアドラー心理学について読んでいます。

> アドラーは「夢や目標は、未来の自分への道しるべ」と言っています。人は過去ではなく「未来の目的」に向かって進むと考えます。夢や目標を持つことは、ただの願いではなく、あなたの行動を決める力になります。たとえ今できないことがあっても、それは劣等感ではなく「成長のチャンス」です。大切なのは、完璧になることではなく、一歩ずつ前に進む勇気を持つこと。あなたの夢は、あなたを強くし、仲間と協力する力をくれます。だから、「どんな自分になりたいか」を考えてみてください。

樋熊先生の話と結びつきませんか。３年生は、人生最初の選択の時期です。冬休みが、この２人の言葉を考える機会になればと思います。

先日生徒会役員選挙が終わりました。先ほど任命書を手渡しました。令和８年度に向けて生徒会の組織づくりも進んでいます。令和７年度３年生を中心に素晴らしい生徒会活動が展開されました。この伝統を大切にしてほしいと思います。

明日から年末年始休業に入ります。この期間は家族と共に過ごし、家族や家庭を考える大切な時期です。家庭のありがたみに感謝し、自分でどう家庭に貢献するかを考える休みにしてください。そして１月８日の始業式、また元気に登校してきてください。以上で終業式の話とします。

アドラー心理学とは？　※少し難しい言葉もありますが、ビジネスの研修で使われることが多いようです。

アドラー心理学は、オーストリアの心理学者アルフレッド・アドラーが提唱した心理学で、「人間は目的をもって行動する」という考え方が中心にあります。ポイントを紹介します。

１．目的論（原因ではなく目的で考える）

・アドラーは「人は過去の原因ではなく、未来の目的に向かって行動する」と考えました。例えば、「怒りっぽいのは性格だから」ではなく、「怒ることで相手を支配したい」という目的がある、と捉えます。

２．劣等感と優越性追求

・人は誰でも「劣等感」を持っています。これは悪いことではなく、成長の原動力です。劣等感を克服しようとする力が「優越性の追求」で、より良くなろうとする努力につながります。

３．課題の分離

・人間関係の悩みは「誰の課題か」を見極めることが大切。例えば、子どもの勉強は「子どもの課題」であり、親が過剰に介入する必要はない、という考え方です。

４．共同体感覚

・幸せになるためには「他者への貢献感」が重要。「自分は誰かの役に立っている」と感じることで、孤独や不安が減ります。

５．勇気づけ

・アドラー心理学では「人を変えるのではなく、勇気づける」ことを重視します。「あなたならできる」「失敗しても価値がある」という言葉が、人を前向きにします。

アドラーが言う、「幸せを築くために、子どもに手渡したい『４つの力』」

〇親は「いい子」のレッテルを貼りたがる

親の子どもに対する接し方は、子どもの人格形成に大きな影響を与える。例えば、親が子どもに対して「あなたは頑張り屋さんでいい子ね」とほめることがあるが、アドラーは叱ること同様、ほめることも否定している。というのも、子どもによっては、ほめられたことで「もっといい子にならなくてはいけない」と必要以上に頑張ってしまう場合があるからだ。それに親が気づかず、いつの間にか子どもに「いい子」のレッテルを貼って、プレッシャーをかけてしまっているケースは多い。「『いい子ね』とほめるのではない。『ありがとう。助かったよ』と感謝を伝えるのだ」とアドラーは述べる。子どもは感謝される喜びを体験すると、自ら貢献できる人間に育っていく。

〇アドラーの教育哲学、「４つのＳ」とは？

アドラー心理学には、親が子どもにどんな態度で接し、何を教えたらいいのかを教えてくれる、独自の教育哲学がある。それは「４つのＳ」と言って、頭文字にＳのついた**「尊敬」「責任」「社会性」「生活力」**が子どもを育てるときの重要な要素となる。

「尊敬」とは、子どもを対等な人間として扱い、相手の行動を尊重すること。

「責任」とは、課題から逃げずにやるべきことをやる責任を、子どもに教えること。

「社会性」とは、自分の欲求を満たすために、他人を傷つけない姿勢や技術のこと。

「生活力」とは社会で生きていく力のこと。

この「４つのＳ」は、子どもを育てる上で必要な理念であり、子どもが生きていく上で大切な要素でもある。「感謝が子どもの心を育て、社会に貢献できる人を育てる」

引用：「決定版　アドラー心理学がマンガで３時間でマスターできる本」　吉田浩　著　明日香出版社

明日から、冬季休業となります。校長講話でもお話ししたとおり、家族と過ごす大切な時間となればと思います。

学校は 12 月 27 日（土）から１月４日（日）までは無人化となります。緊急の連絡は公用携帯（070-7414-5512）へお願いします。